

令和7年度 第1回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議 議事要旨

日 時：令和7年6月30日（月）19:00～20:15

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：9 名

浅野 志麻（沖縄県立宮古病院）、有賀 拓郎（中頭病院）、
金城 達也（琉球大学大学院）、金城 徹（琉球大学病院）、
佐村 博範（浦添総合病院）、本部 卓也（中部病院）、宮城 政剛（新川クリニック）、
山本 孝夫（沖縄県立八重山病院）、増田 昌人（琉球大学病院がんセンター）

欠 席：5 名

糸数 公（沖縄県保健医療介護部）、玉城 研太郎（那覇西クリニック）、
仲宗根 正（那覇市保健所）、仲地 厚（友愛医療センター）、宮里 浩（那覇市立病院）

陪 席：4 名

上原 健司（沖縄県保健医療介護部）、姫岩 翔子（沖縄県立宮古病院）
山里 紘美（沖縄県保健医療介護部）、西 佐和子（琉球大学病院がんセンター）

【報告事項】

1. 令和6年度 第4回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について
増田委員より、資料1に基づき、議事要旨について報告があった。
2. 今年度の委員について
増田委員より、資料2に基づき、今年度の委員について報告があった。
3. 大腸がん対策を推進するための「大腸がんファクトシート」
増田委員より、資料3に基づき、大腸がんファクトシートの紹介があった。時間の関係上、特に「第6章 今後の方策」に注目して内容が共有された。
4. 大腸がんロジックモデルの修正案について
増田委員より、資料4に基づき、大腸がんロジックモデルの修正案が示された。「大腸がんファクトシート」（第6章 今後の方策）を受けて指標の追加を行ったが、特に異議はないと思われるため、後ほど内容をご確認いただきたいとのことだった。
5. 県または市町村における大腸がんの予防検診対策について
沖縄県保健医療介護部・上原様より、資料5に基づき、県が取り組んでいる大腸がんの予防検診対策①がん検診充実強化促進事業、②タバコ対策事業、③飲酒対策事業、④生活習慣病予防事業について、報告があった。

6. 第 98 回日本産業衛生学会 産業(職域)保健分野での取組について

仲宗根委員に代わって増田委員より、資料 6 に基づき、産業(職域)保健分野での取組についての報告があった。今後、具体的に検討したいとのことだった。

7. 宮古島大腸がん検診キャラバンについての提案について

浅野委員より、資料 6 に基づき、宮古島で検討している大腸がん検診キャラバンについて報告があった。それを受けて、各委員より意見や提案があった。

ある市町村では、便潜血の容器を配布したものの、実際に検査を受ける人と受けない人が存在し、予算に負担がかかっている。また、住民検診を受ける人と職域検診も受ける人がおり、二重の手間や無駄な予算が生じている点が課題となっており、その点について宮古島市との連携について質問があった。

次に、がん検診に関するニーズ調査が行われているかの確認があった。沖縄本島で検査を受ける人も多いため、検査を受けない理由を把握することは難しい。また、症状があるにもかかわらず受診しない理由としては、不安感や対処法がわからず、見て見ぬふりをすることが多いことがあげられる。また、病気を他人に知られたくないといった場合も含めて、その選択肢として相談窓口の設置が提案された。

続けて、検査を受けない人に検査を受けてもらうためには、より住民に近いという意味で、公民館の区長さんの力を借りて行くと効果的であるとの意見があった。

最後に、便潜血の検査は、事前に容器を渡さないと当日には便を出すことが難しく、二度訪問することになる。また、便を持参できなかった場合でも、当日その場で検査できるオプションの提示が可能であるとして、検査を希望する方に選択肢を提供する提案がなされた。

【協議事項】

1. 大腸がん相談室利用方法の改善について

佐村委員より、前回から進捗がなく、新たな相談は発生していないとの報告があった。今後は進行症例以外の相談も増やしていきたいとのことだった。これを受けて、県外科会などで、相談室を利用された方に相談後の経過を定期的にプレゼンしてもらうなどの提案がされた。

2. その他

佐村委員より、便潜血陽性を伝えた後に精密検査に行ってもらう方策があれば、共有していただきたいとの依頼があった。